

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））
分担研究報告書

痙攣性発声障害の診断基準および重症度分類の策定に関する研究

研究分担者 讃岐徹治 熊本大学 医学部附属病院 講師

研究要旨

痙攣性発声障害患者の臨床データを収集して患者データベースを作成し、痙攣性発声障害の臨床像および音声所見を多角的かつ客観的に解析する。それをもとにして本症の診断基準および重症度分類案を作成するため、27年度末に熊本大学大学院生命科学研究部の倫理委員会の審査を経て、28年度にデータを収集し、診断基準および重症度分類案を作成する。

A. 研究目的

痙攣性発声障害は発声器官に器質的異常や運動麻痺を認めない機能性発声障害の一つであるが、極めてまれなこともあり、国内はもとより海外においても客観的指標に基づく診断基準や治療方針が確立されておらず、適切な診断や治療を受けられていない患者が少なくない。

本研究では、痙攣性発声障害患者の臨床データを収集して患者データベースを作成し、痙攣性発声障害の臨床像および音声所見を多角的かつ客観的に解析し、それをもとにして本症の診断基準および重症度分類案を作成する。

B. 研究方法

2006年1月1日から現在までに当院耳鼻咽喉科・頭頸部外科を受診し、対象疾患に該当診断された患者の診療情報上のデータを収集し、高知大学に集積、データベース化する。

データベースを元に、研究班において、本症の診断基準および重症度分類案を作成する。

（倫理面への配慮）

本研究で収集されたデータを当該医療機関外に提供する際には、被験者識別コードを付して連結可能匿名化を行う。また、医学雑誌への発表等においては、被験者の秘密を保全する。

C. 研究結果

データベースを元に、研究班全体で診断基準および重症度分類案について検討を行い、案を作成した。29年度中に関連学会を介してパブリックコメントを得た上で、運用を予定している。

D. 考察

痙攣性発声障害は、希少難治性疾患であるが、世界的に診断基準がないため多くの患者が診断されないで発声障害に苦しんでいることが予想できる。

研究班で患者情報を元にした診断基準と重症度分類のガイドラインが作成されることで、耳鼻咽喉科医による診断が容易になると共に患者の把握、疾患の自然史、治療の実施状況、治療の評価につながり、多くの発声障害患者を救済することが可能となる。

E. 結論

痙攣性発声障害患者の臨床データを収集した患者データベースを元に、世界に先駆けて研究班全体で本症の診断基準および重症度分類案を作成した。29年度中に関連学会を介してパブリックコメントを得た上で、運用を予定している。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Sanuki T , Yumoto E , Toya Y , Kumai Y :
Voice tuning with new instruments for type thyroplasty in the treatment of adductor spasmodic dysphonia. *Auris Nasus Larynx*. 43(5) ; 537-540 , 2016
- 2) 讃岐徹治 : 「第117回日本耳鼻咽喉科学会総会シンポジウム」耳鼻咽喉科・頭頸部外科の将来展望 - 今求められる新たな耳鼻咽喉科領域の医療技術開発とその実用化 - . 日本耳鼻咽喉科学会会報 . 119 ; 1359-1365 , 2016
- 3) Sanuki T, Yumoto E : Long-term evaluation of Type 2 Thyroplasty with Titanium Bridges for Adductor Spasmodic Dysphonia . *Otolaryngology-Head and Neck Surgery* . In Press

2. 学会発表

- 1) 讃岐徹治 : 今求められる新たな耳鼻咽喉科医療技術開発とその実用化 (シンポジウム) . 第 117 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 . 名古屋 , 2016.5.18-21
- 2) Sanuki T : Type II Thyroplasty (ワークショップ) . 14th Biennial Phonosurgery Symposium . 米国 , 2016.7.7-9
- 3) Sanuki T : Type II Thyroplasty for Spasmodic Dysphonia (パネルディスカッション) . 14th Biennial Phonosurgery Symposium . 米国 , 2016.7.7-9
- 4) Sanuki T , Kodama N , Yumoto E : Type 2 thyroplasty with titanium bridges for adductor spasmodic dysphonia . 30th World Congress of the International Association of Logopedics and Phoniatrics (IALP) . アイルランド , 2016.8.21-25
- 5) Sanuki T , Yumoto E , Toya Y : Benefit and Features of Type 2 Thyroplasty for Spasmodic Dysphonia . American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Foundation (AAO-HNSF) Annual Meeting & OTO EXPO . 米国 , 2016.9.18-21

- 6) 讃岐徹治 : 内転型痙攣性発声障害に対する革新的医療機器「チタンブリッジ」の医師主導治験 . 難治性疾患実用化研究事業及び免疫アレルギー疾患等実用化研究事業(免疫アレルギー疾患実用化研究分野)2016年度合同成果報告会(指定講演およびポスター発表) . 東京 , 2017.2.10

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし